

世界の消防局

…世界 130 主要都市の消防局ホームページのリスト…

I はじめに

インターネットの進歩・普及等に伴い、世界各国の主要都市の消防局がホームページを開設するようになった。こうしたホームページには管内の火災発生件数や消防局の組織、職員数、ポンプ車などの車両数といった基本的なデータに加え、消防局長のあいさつや基本方針の表明、消防法令の紹介、さらには写真や動画による活動状況の報告や当該都市の過去の大規模火災の紹介など、世界各国の主要都市の消防事情を知る上で極めて有益な情報が掲載されている。

また、消防の提供するサービスは住民に身近なものが多い。そのため世界の消防の実体は軍や警察と違い、国単位でなく都市ごとに、その歴史や環境、市民の意向などを踏まえて成り立っている傾向がある。例えば、台湾では台北市は救急搬送が有料とされているのに対し、隣接する新北市は無料のままであるなどといった違いがある(2019 年現在)。こうした傾向はアメリカやドイツといった連邦国家では特に顕著である。また、消防の経費についても、多くの都市において、国費の割合は低く、大部分が都市の税金等が充てられている。まさに「自治体消防」と言われる所以である。海外の消防の実態を知るためには、国全体の情報だけでなく主要都市の消防の実態を知る必要がある。

海外消防情報センターでは、これまでアメリカやイギリス、タイ、ベトナムなど 14 か国の消防事情について調査を行ってきたが、これに加えて、ホームページを通じ海外主要都市の消防局の情報に直接アクセスすることにより、海外の最新かつきめ細かい消防事情を理解することができるものと考えている。

一方で、これもインターネットの進歩・普及により、無料の自動翻訳システムの進化にも著しいものがある。もちろん、まだまだ課題は少なくないが、自動翻訳システムの利用によって少なくとも大意は理解することができる。数年前と比べれば長足の進歩だと言えるだろう。さらにホームページには図表や数字、動画などが掲載されており、これと照らし合わせることによって、より正確な理解が深まると考えられる。

そこで、海外消防情報センターでは、世界主要都市の消防局を 130 局程度、リストアップして、そのホームページに直接アクセスすることのできる文書を、今回、公開することとした(新興国の都市では、市のホームページの中に消防の紹介がある場合も少なくない)。

それと同時にグーグル・クロームとマイクロソフト・エッジを例に自動翻訳の手法について、できるだけ分かりやすく解説することとした。

利用者は閲覧を希望する都市の消防局のホームページをリストから選び、クリックするとともに、自動翻訳の仕組みを活用してホームページの内容を把握して欲しい。

なお、多くの国において各都市等の消防局に加え、消防行政を司る国の組織が存在する。そうした国については国の組織のホームページについても極力リストアップすることとした。また、日本の消防局についても東京消防庁をはじめ代表的な消防局をリストアップした。これは海外消防情報センターには、日本の消防について情報を得ようとする海外からのアクセスがかなり多いことからである(海外消防情報センターへのアクセスの3分の1は海外からである)。

また、世界の消防局の中には、母国語とは別に英語のホームページを持つところもあるが、一般的に、英語のホームページは母国語のホームページと比べて情報量が少ないことから、リンク先はできるだけ母国語のホームページとした。母国語が日本になじみのない言語の場合、現状の自動翻訳では日本語の翻訳文が解り難くなるため、母国語から一旦、英語に自動翻訳し、その英語で内容を確認した方が分かりやすいこともあるようだ。

2020年6月17日
センター長 佐野 忠史